

整備進む「徳島病院病棟等建替整備工事」

神経・筋疾患の四国の基幹施設

吉野川市鴨島町の丘陵地にある独立行政法人国立病院機構徳島病院で「病棟等建替整備工事」が5月末の完成を目指して進められている。一般医療はもちろん、四国で唯一の筋ジストロフィー医療施設および神経・筋疾患の基幹施設として活動を続ける徳島病院。今回、新たに整備する施設の概要について徳島病院事務部長の篠原秀男氏に聞くと

1シヨン部門でベッド数242床。これ以外に、すみれ病棟を増築改修(58床)、ひまわり病棟をリネア施設へと改修する。工期は2012年2月～13年5月末。総事業費約17億円。

ともに、工事の進捗について紹介する。

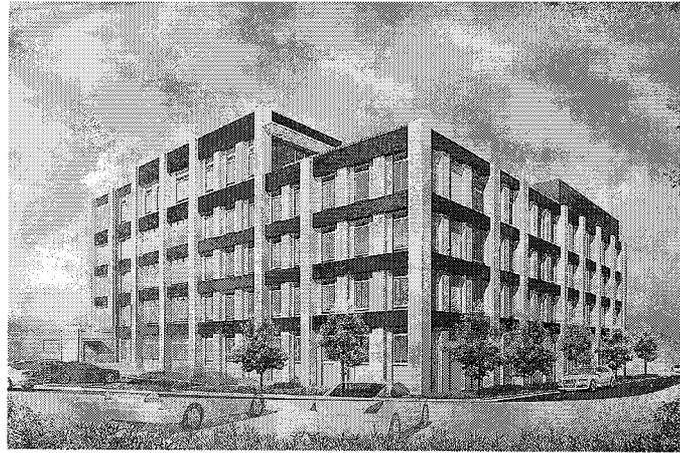
新病院の特色としては、神経・筋疾患の基幹施設として国立精神神経センターとの連携、徳島県難病医療ネットワーク事業の難病医療拠点病院、筋ジス疾患と骨・運動器疾患への対応、脳神経筋リハビリセンターなどがある。これまでも四国神経筋センターとして、筋ジス医療や神経難病(パーキンソン、ALS等)、またスポーツ医学センター、消化器病センター、総合リハビリや外来診療を通じて地域に貢献しており、完成後の新施設でも、特色を生かした医療活動を続ける。

新病棟の規模は、鉄筋コンクリート造5階建て延べ約8090平方メートル。1階が筋ジストロフィー疾患、2～3階が神経・筋疾患、4階が神経・筋疾患と一般患者、5階がリハビリテ

新病院の特色としては、神経・筋疾患の基幹施設として国立精神神経センターとの連携、徳島県難病医療ネットワーク事業の難病医療拠点病院、筋ジス疾患と骨・運動器疾患への対応、脳神経筋リハビリセンターなどがある。これまでも四国神経筋センターとして、筋ジス医療や神経難病(パーキンソン、ALS等)、またスポーツ医学センター、消化器病センター、総合リハビリや外来診療を通じて地域に貢献しており、完成後の新施設でも、特色を生かした医療活動を続ける。

新病棟は延べ8090平方メートル

四国神経筋センター

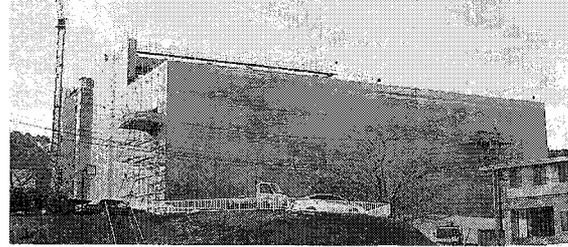


工事は約1年前に既存建物の解体から開始。12年3月下旬より新病棟敷地を掘削して5～6月より基礎・躯体工に入った。コンクリート打設は7～8月に1階、その後は2カ月に1階分のペースで進め、12月から5階部分を施工、機械設備や電気設備、内部間仕切り等も1階から順次進めてきた。今後は、壁ボード貼り、天井下地や天井ボード、設備工の設置・仕上げを進め、4月には電気等の試運転と調整を行う予定。



南側

工事中の新病棟



東側より